



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡してください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

●本体と上レールへのかかりを5mm以上確保してください。かかりが少ない場合は、建付けの調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

■取付け上のおお願い

- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。また、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル（床面）に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠の下地材および、かい木には、合板などの乾燥材（含水率20%以下）を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤（現場手配）を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤（現場手配）を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けてください。
- 梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱い場合直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がレールや戸車に付着し、作動不良の原因になります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。ただし、たたき込まないようにしてください。保持力低下の原因になります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 枠は倒れ、傾き、タイコ、ツツミ、ねじれがないように取付けてください。片引枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因となります。
- 片引き・引分けの建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから取付けてください。
- 鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- 床と薄敷居のすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。
- ツバ材取付けの際、ハンマーなどで強くたたき込まないでください。
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- ブレーキ力調整ねじを弱方向に回す場合は、ブレーキの表面よりねじ頭を1.5mm以上出さないように調整してください。
- 現地張りタイプの場合、和室側をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ（ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど）を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

■本体保管上のおお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・昼夜などで温度差の激しい場所
 - ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、施工完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

		片引戸	片引戸2枚建	片引戸3枚建	引違い戸2枚建	引違い戸3枚建	引違い戸4枚建	引分け戸
本体	本体	1枚梱包×1	1枚梱包×2	1枚梱包×3	1枚梱包×2	1枚梱包×3	1枚梱包×4	1枚梱包×2
枠	鴨居	1	1	1	1	1	1	1
	上レール	1	1	1	1	1	1	1
	縦枠	1	1	1	2	2	2	－
	中縦枠	1	1	1	－	－	－	2
	小縦枠	1	1	1	－	－	－	2
	戸当り	2	3	4	4	6	4	2
	目隠し	－	－	1	－	－	－	－
	幅木	1	1	1	－	－	－	－
	三方枠用部品セット	1	1	1	1	1	1	1
	ケーシングセット	縦:2 横:1	縦:2 横:1	縦:2 横:1	縦:2 横:1	縦:2 横:1	縦:2 横:1	縦:2 横:1
下枠 ※別売	ツバ付薄敷居	下枠:1、レール:1 ツバ材:1	下枠:1、レール:1 ツバ材:1	下枠:1、レール:1 ツバ材:1	下枠:1、レール:1 ツバ材:1	下枠:1、レール:1 ツバ材:1	下枠:1、レール:1 ツバ材:1	下枠:1、レール:1 ツバ材:1
	ツバ無薄敷居	下枠:1 レール:1	下枠:1 レール:1	下枠:1 レール:1	下枠:1 レール:1	下枠:1 レール:1	下枠:1 レール:1	下枠:1 レール:1
	下枠用部品セット	1	1	1	1	1	1	1

※和室引込と洋室引込は共通(片引戸・片引戸2枚建・片引戸3枚建)
※幅木は洋室引込の場合のみ同梱

■部品セット明細

三方枠用部品セット	片引戸	片引戸2枚建	片引戸3枚建	引違い戸2枚建	引違い戸3枚建	引違い戸4枚建	引分け戸
組立て用皿小ねじ M4×50	4	4	4	4	4	4	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ 4 × 50	5	8	8	5	8	8	8
縦枠取付け用DN ねじ(皿木ねじ) φ3.8×50	6	6	6	6	6	6	6

※和室引込と洋室引込は共通(片引戸・片引戸2枚建・片引戸3枚建)

下枠用部品セット	片引戸	片引戸2枚建	片引戸3枚建	引違い戸2枚建	引違い戸3枚建	引違い戸4枚建	引分け戸
組立て用皿小ねじ M4×50	5	5	5	4	4	4	6
薄敷居取付け用ねじφ3.3×30	6	12	12	12	12	12	10

※和室引込と洋室引込は共通(片引戸・片引戸2枚建・片引戸3枚建)

■開口部の作り方

■対応壁厚

(単位:mm)

	対応壁厚
薄壁用	117～160
厚壁用	131～175
2 × 4	114
片引戸2枚建・引違い戸3枚建	147～191
片引戸3枚建	187～231

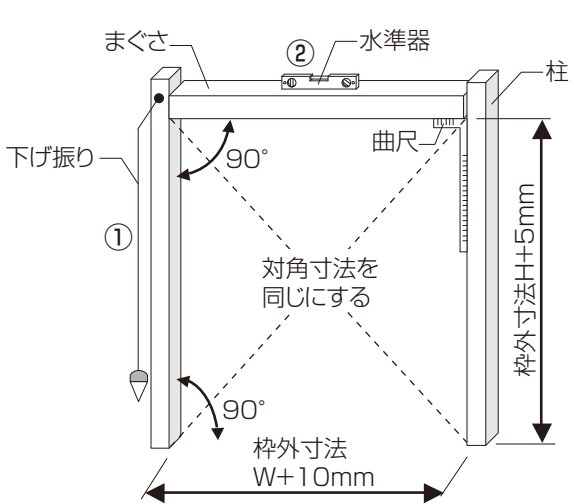
■壁厚の違いによる枠とケーシングの組合せ

(単位:mm)

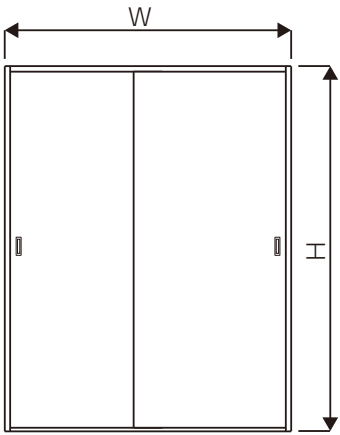
	ケーシング (足寸法)	対応壁厚
薄壁用	8	117～126
	14	121～132
	19	127～137
	42	132～160
厚壁用	8	131～141
	14	136～147
	19	142～152
	42	147～175
2 × 4 用	8	114

(単位:mm)

	ケーシング (足寸法)	対応壁厚
片引戸2枚建 引違い戸3枚建	8	147～157
	14	152～162
	19	157～168
	42	163～191
片引戸3枚建	8	187～197
	14	192～202
	19	197～208
	42	203～231



●製品寸法



- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。

× 倒れ

× 傾き

× タイコ

× ツツミ

× ねじれ

■取付け順序

1 枠の組立て

2 枠の取付け

3 ツバ材の取付け

(ツバ付薄敷居を使用する場合)

4 下レールの取付け

5 ケーシングの取付け

6 幅木の取付け

(洋室引込の場合)

7 引手の取付け

調整が必要な場合

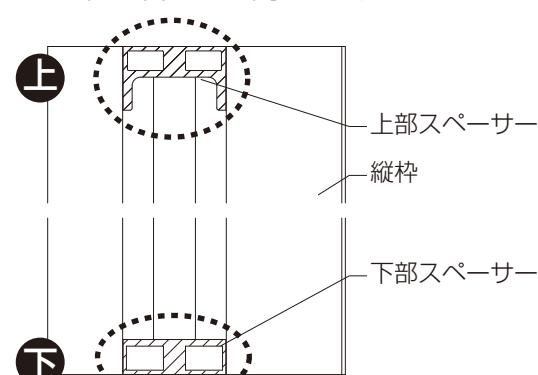
本体の調整 (6/11 ページ)

- 1 上下調整
- 2 左右調整
- 3 ブレーキの左右調整
- 4 ブレーキ力調整
- 5 中縦枠の調整

1 枠の組立て

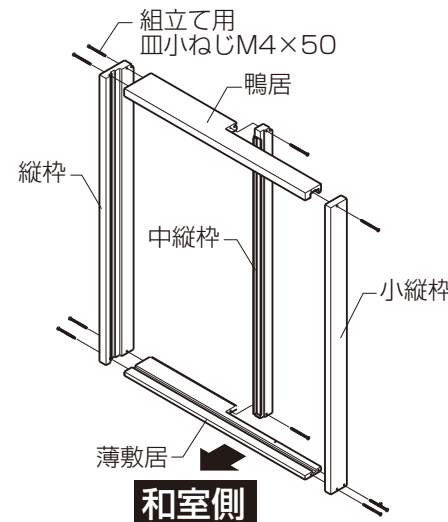
●右図のように、各部材を組合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。

縦枠には上下があります。
大きなスペーサーが付いている方が上側です。組み合わせる向きにご注意ください。

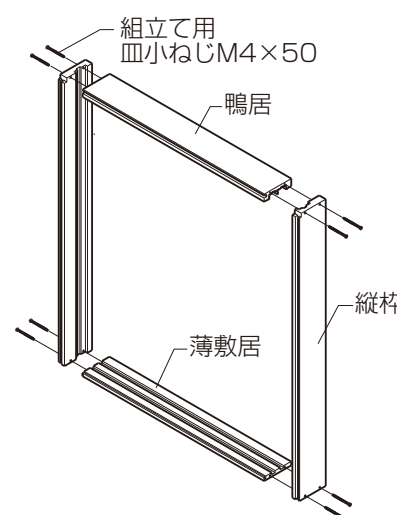


※図は片引戸の場合を示します。

●片引き枠



●引違い枠



〔薄敷居〕 ●片引き

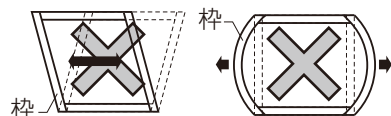


●引違い



…枠組立て上のごお願い…

- ※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。
- ※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- ※ねじは、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因となります。
- ※枠組立て後、揺らす・引っ張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因になります。



2 枠の取付け

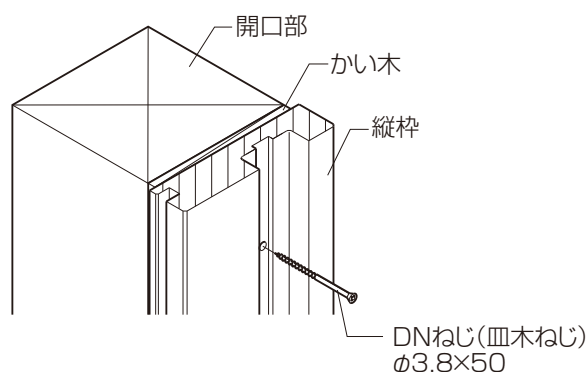
①開口部と、縦枠・(中縦枠・小縦枠)・上枠との間にかい木を入れて取付けます。

■鴨居

※鴨居はトラスタッピンねじφ4×50で固定してください。

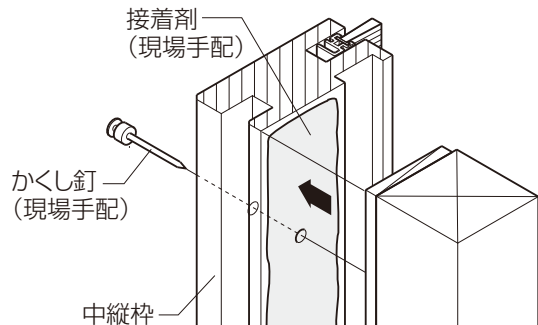
■縦枠・小縦枠

※DNねじ(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。



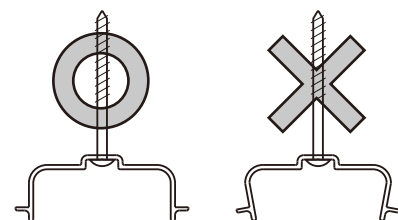
■中縦枠

※裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、かくし釘(現場手配)で固定します。

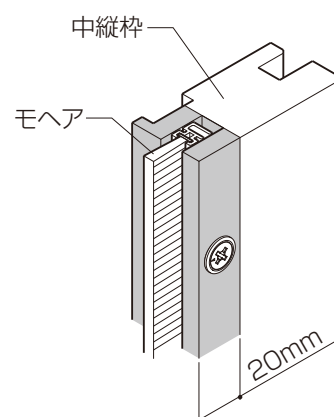


…枠取付け上のごお願い…

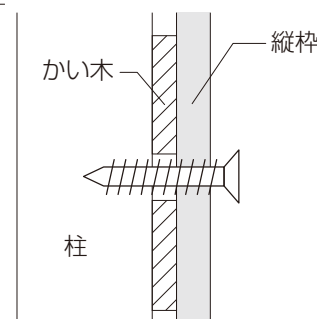
- ※片引き・引分けの建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから施工してください。
- ※鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



中縦枠を固定する際、釘やタッカーをモヘア側から表裏20mmの斜線部には打たないでください。
中縦枠にはモヘアを調整する機能が付いているため、部品が破損し調整出来なくなります。



上下・左右のすき間をかい木で調整し、水準器・下げ振りをを使って枠に倒れ・傾き・ねじれがないことを確認した後、ねじを本固定してください。
※枠に水糸を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。



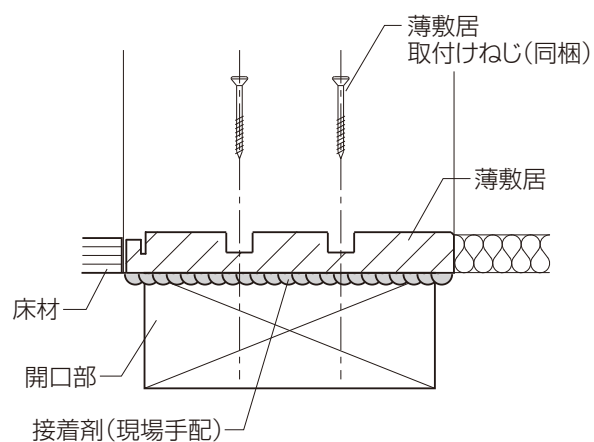
かい木は100mm以上を使用して木工用ボンドで接着してください。

②薄敷居を開口部に取付けます。

●床材厚さ12mm

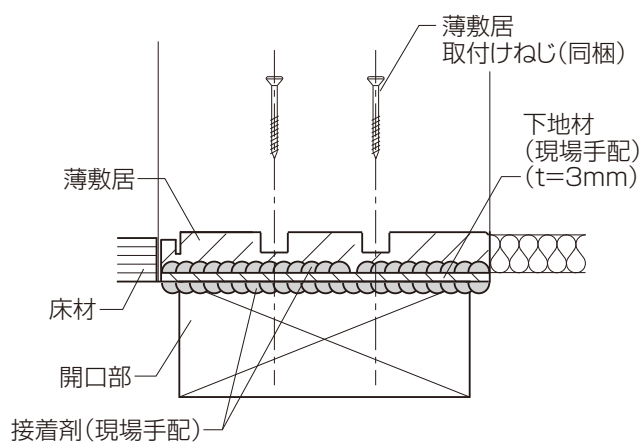
※必ず薄敷居に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。

※ねじは端部より50mm離し、450mmピッチで接着剤(現場手配)と併用して取付けてください。

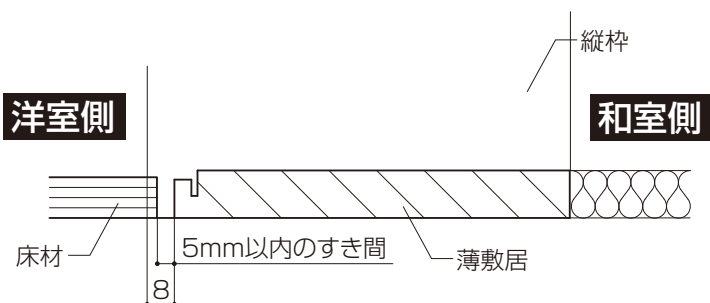


●床材厚さ15mm

※必ず薄敷居と下地材に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



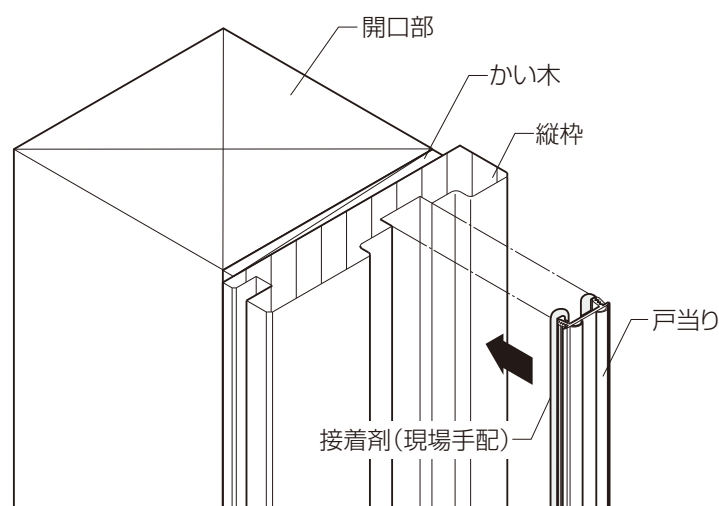
③枠取付け後、下図のように床材を張ってください。



お願い

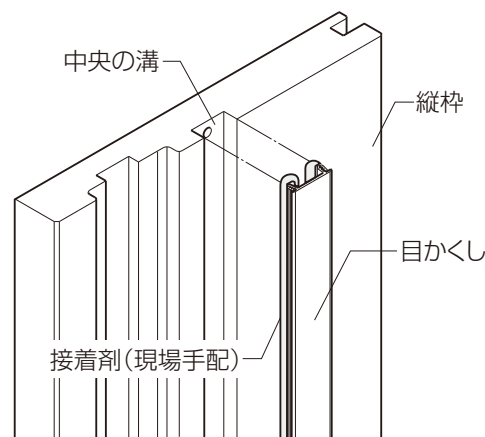
※床材と薄敷居のすき間は5mm以内にしてください。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。

④戸当りを接着剤(現場手配)で取付け、溝をふさぎます。



⑤縦枠中央の溝に目かくしを戸当りと同様に接着剤(現場手配)で取付けます。

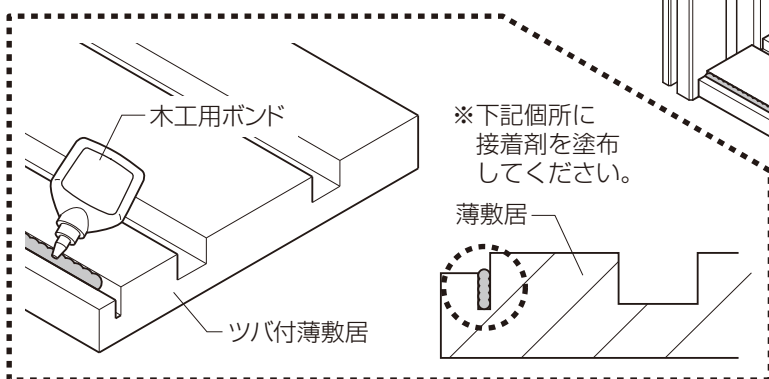
※片引戸3枚建のみ



■ツバ材の取付け(ツバ付薄敷居を使用する場合)

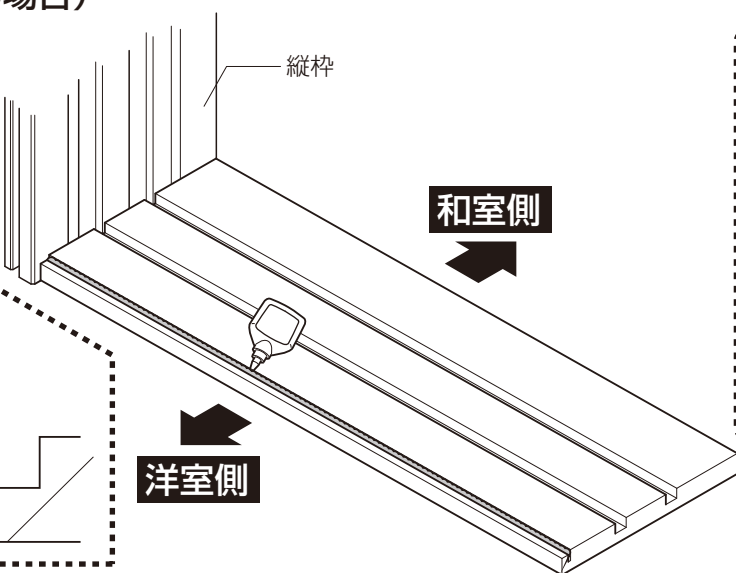
①現場でツバ材の寸法を開口に合わせて切断してください。

②薄敷居の溝に木工用ボンド(現場手配)を溝全長にすき間なく塗布してください。



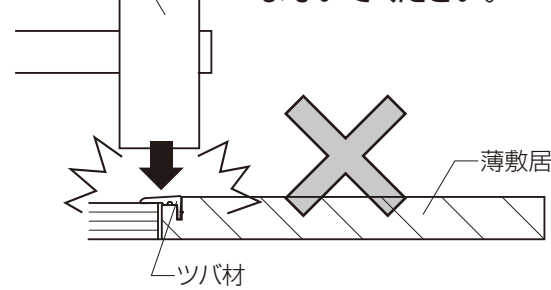
※下記個所に接着剤を塗布してください。

薄敷居



お願い

※ハンマーなどでたたき込まないでください。



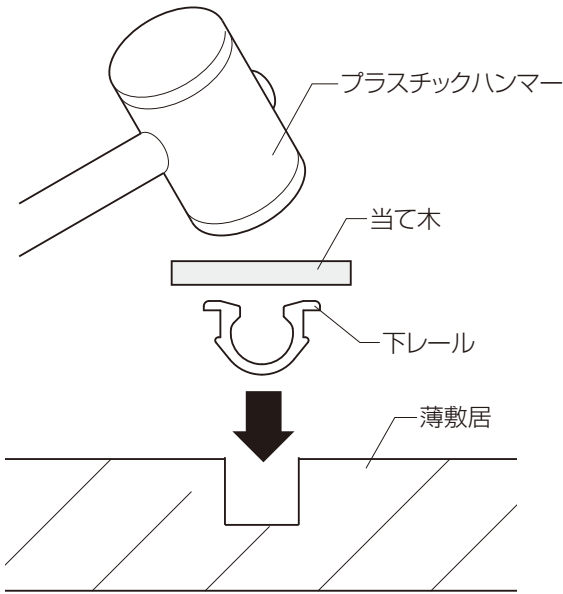
お願い

※ツバ材取付け部には必ず接着剤をすき間なく塗布してください。塗布が不十分だとツバ材の外れ、敷居が割れる可能性があります。

※ツバ材は、ハンマーなどで直接強くたたき込まないでください。ツバ材、敷居が破損する可能性があります。

4 下レールの取付け

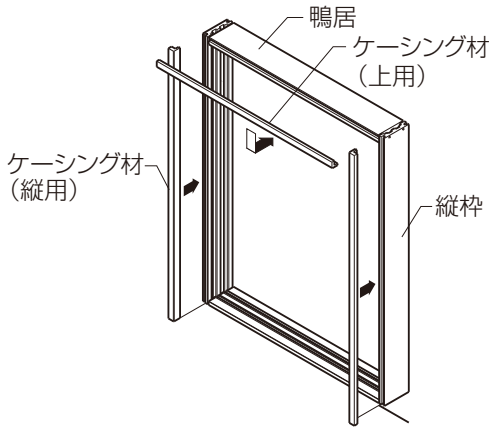
- 敷居の溝にプラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。



5 ケーシング材の取付け (ケーシングタイプを使用する場合)

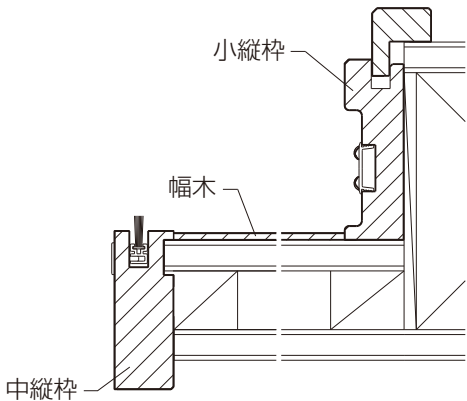
※壁材・床材を仕上げてからケーシング材を取付けてください。

- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。



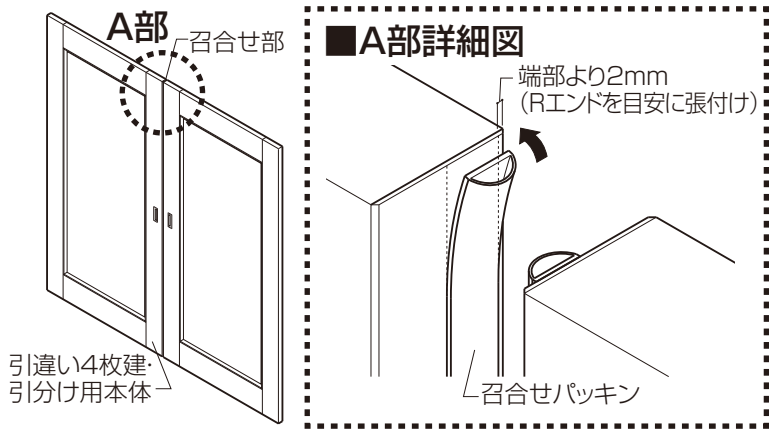
6 幅木の取付け※洋室引込の場合のみ

※片引き枠には、小壁のボードと埋込敷居またはフラット下レールを見切るために幅木が同梱されています。必ずご使用ください。幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤(現地手配)を塗布し、専用のかくし釘で固定します。かくし釘のピッチは、200～300mmです。



■ 召合せパッキンの取付け (引違い4枚建・引分けのみ)

※引違い4枚建・引分け用本体の召合せ部に、パッキンを取付けます。パッキン裏面のシートをはがし、5kg程度の力で手で押して張付けてください。



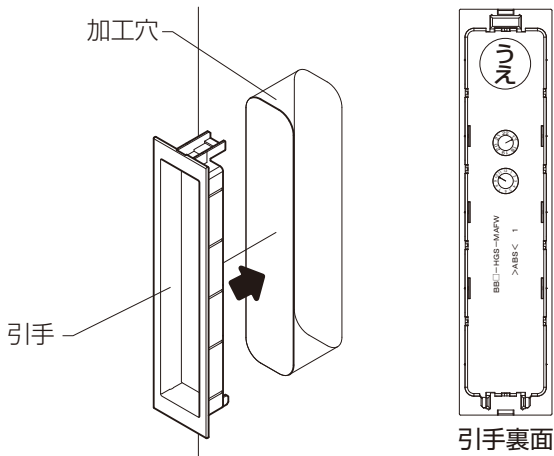
お願い

- ※パッキンは、必ず本体を吊込んで、建付け調整を行ってから張付けてください。
- ※パッキンは、張付け面のホコリ・汚れ・油分などを取除いてから張付けてください。
- ※はがす場合は、上部からゆっくりと引っ張ってはがしてください。勢いよくはがすと、表面シートを傷める可能性があります。

7 引手の取付け

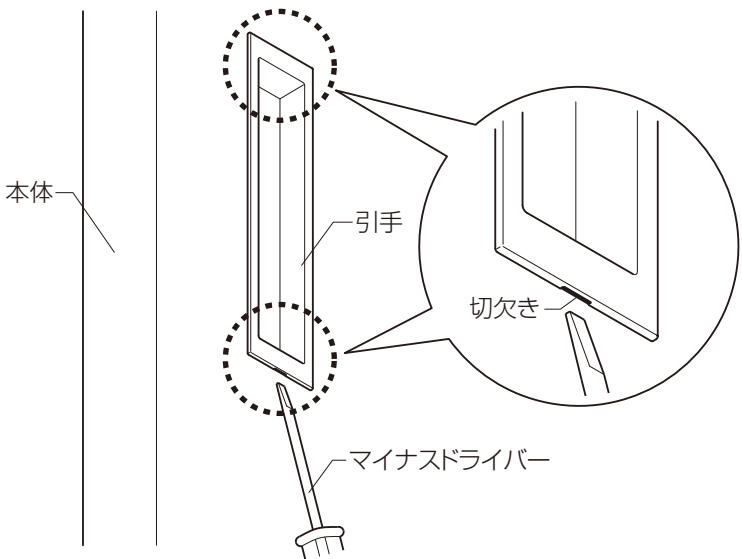
本体の加工穴に引手を取付けます。

※引手裏面の㊟シールを上側にして取付けてください。



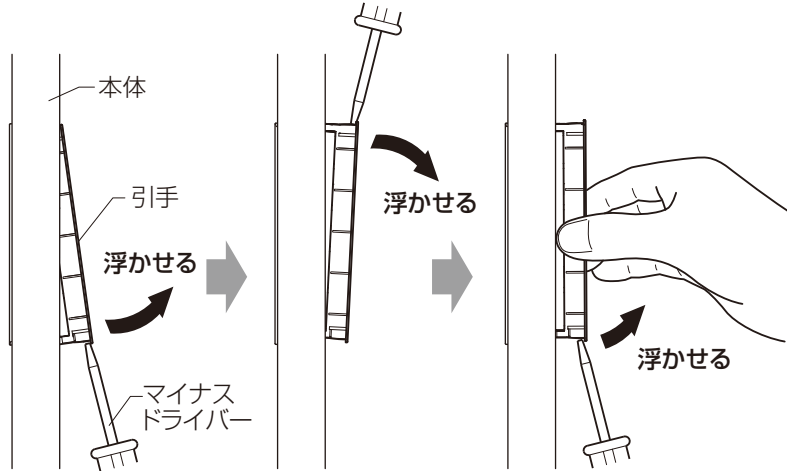
● 引手の取外し

引手上下にある切欠きに本体をキズ付けないようにマイナスドライバーを差込み、少しずつ引手を浮かせて外します。



お願い

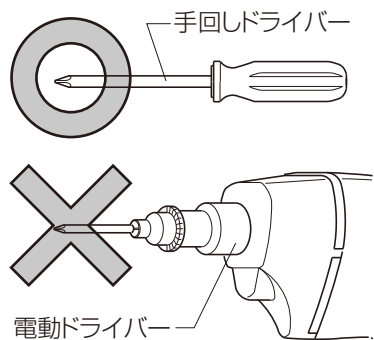
- ※上下から少しずつ外してください。片側から一度に外そうとすると引手が破損するおそれがあります。



■本体の調整

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。

※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



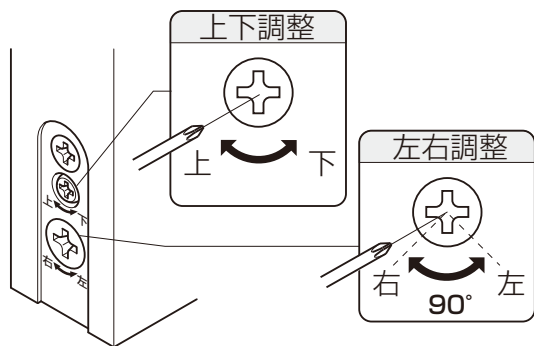
1 上下調整(調整幅+4mm、-2mm)

※上レールに5mm以上かかるよう調整してください。

- ①本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
- ②調整後、本体の鴨居へのかかりが5mm以上あるか確認してください。

2 左右調整(調整幅±2mm)

本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が左に動き、右に回すと右に動きます。
※左右調整ねじの可動範囲は90°です。これを超えて無理に回さないでください。

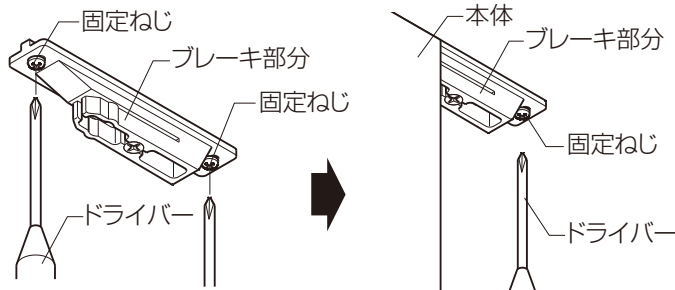


▲ 注 意

- 本体と上レールへのかかりを5mm以上確保してください。かかりが少ない場合は、本ページの建付け調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

3 ブレーキの左右調整

本体の左右調整時、ブレーキの左右調整も行ってください。上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめ、下図のように本体を途中まで閉じてください。このまま片側の固定ねじを締め、本体を開けて反対側の固定ねじも締めてください。

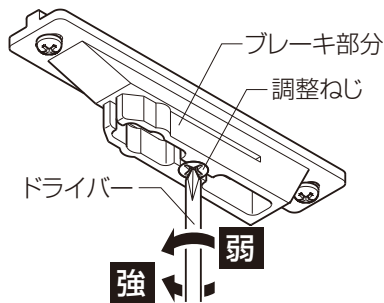


4 ブレーキ力調整

上レール内側に付いているブレーキ部品の調整ねじで、ブレーキ力を調整してください。

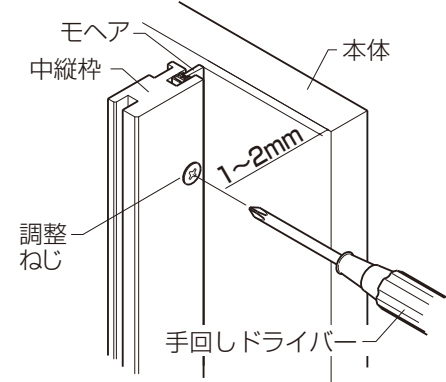
・ブレーキ力調整上のお願

- ※調整ねじを弱方向に回す場合は、ブレーキの表面よりねじ頭を1.5mm以上出さないように調整してください。



5 中縦枠の調整(調整代+6mm)

●中縦枠のモヘアの出寸法を調整する



建付け調整 動画



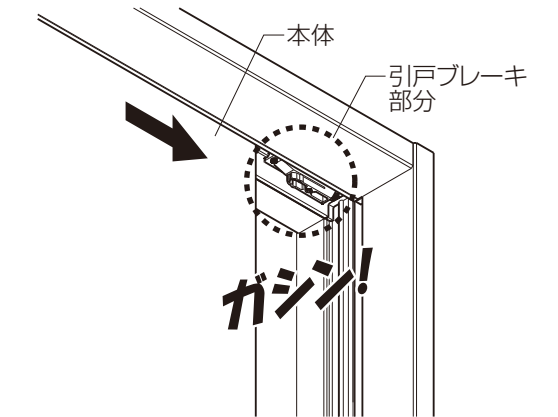
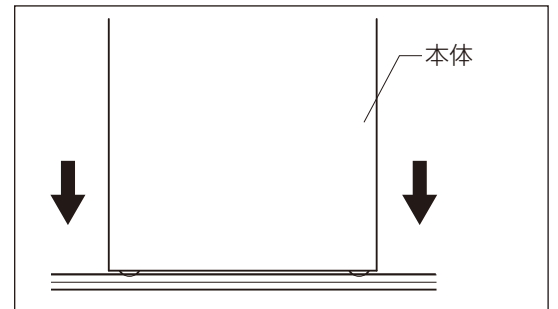
973347946002

※本体とモヘアのすき間が1～2mm程度になるように調整してください。

出荷時には輸送時のモヘアの折れ曲がりを防ぐためモヘアを最も引っ込めた状態で出荷しています。

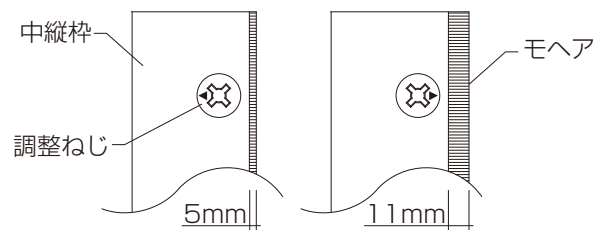
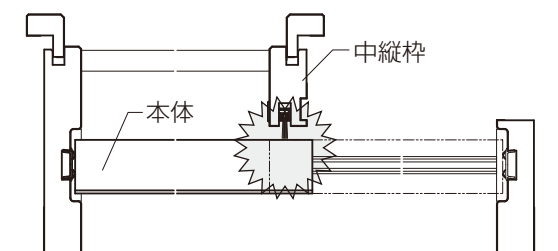
- ①中縦枠のモヘア調整ねじを手回しドライバーで回してモヘアの出寸法を調整してください。
 - ②調整後、本体とモヘアの先端が1～2mmのすき間が確保されているか確認してください。
- 調整ねじの▲マークがモヘア側に向いている時がモヘアが最も出ている状態で、逆に向いている時が最も引っ込んでいる状態です。

- 本体がブレーキ部品にあたる時は、上下調整ねじを回して本体を下げてください。



●片引戸・引分け戸

※本体と中縦枠モヘアが接触しすぎると、開閉が重くなります。



■戸襖の現地張り

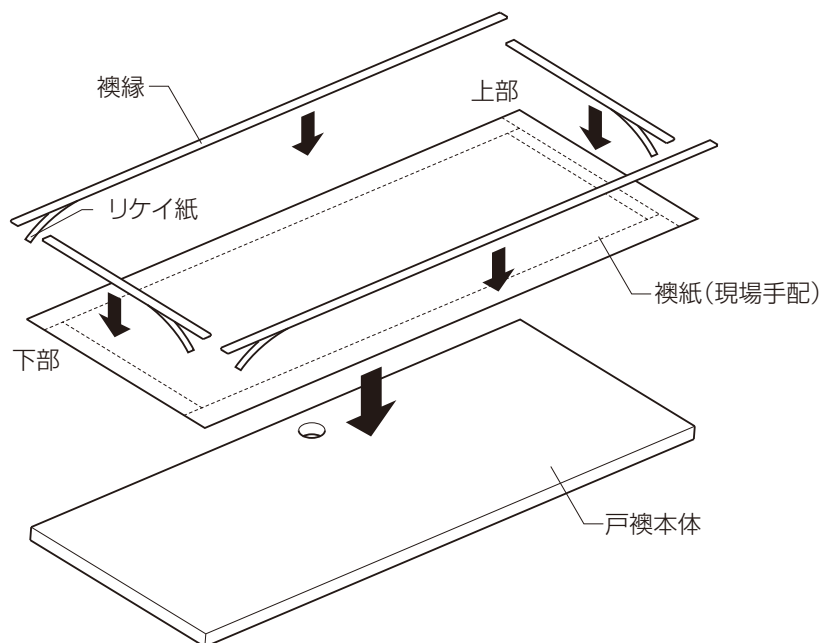
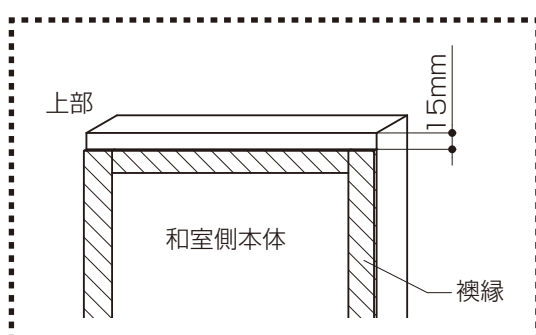
- 生地タイプの戸襖の場合は、現地で襖紙を張ってください。

- ①襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で張ります。
- ②襖縁を、本体の寸法に合わせノコギリで切断します。
- ③襖縁のリケイ紙をはがし、襖紙の上から圧着してください。

※襖縁の厚さは2種類あります。厚い方を縦に、薄い方を横に使用してください。
※襖縁は本体上部より15mm下げた位置に取付けてください。
※現場手配した襖紙を張った場合は、次の張替え時から上に張増ししてください。

お願い

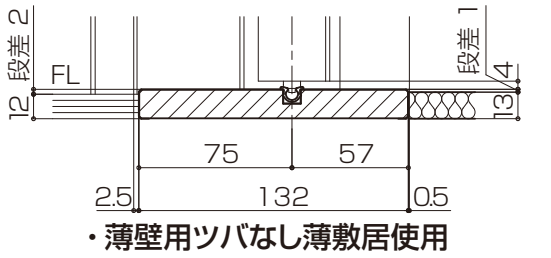
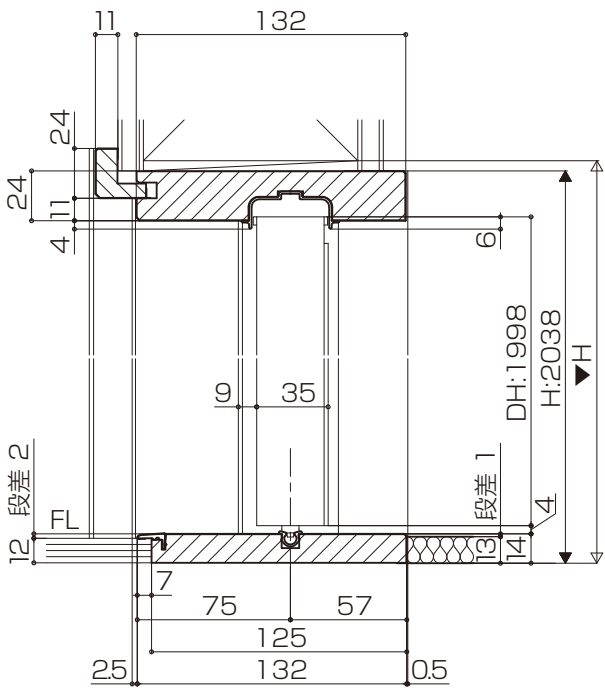
- ※クロス張りにしないでください。ソリが生じます。



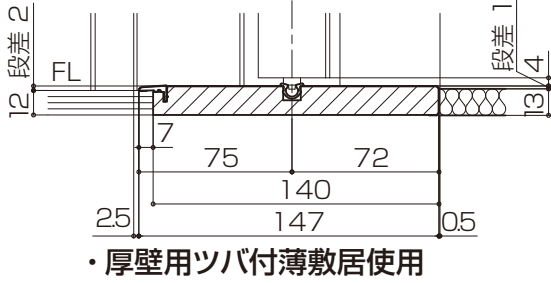
■納まり図

■片引戸(薄壁用)

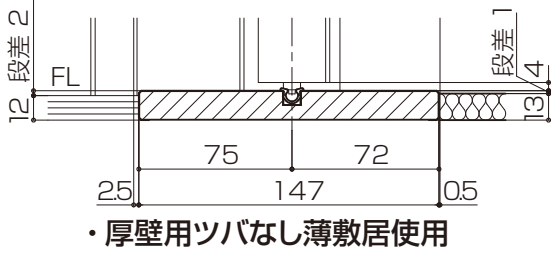
●縦断面図



・薄壁用ツバなし薄敷居使用

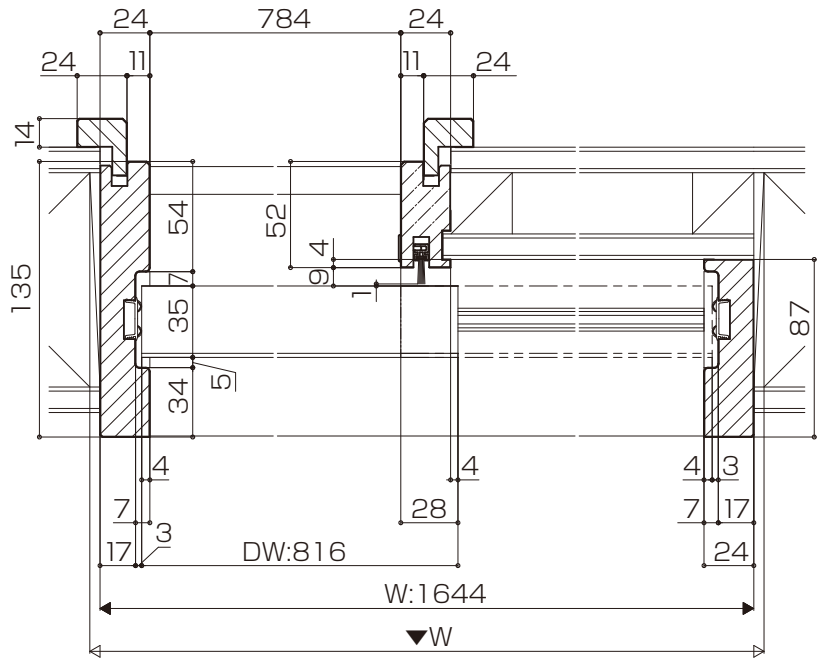


・厚壁用ツバ付薄敷居使用



・厚壁用ツバなし薄敷居使用

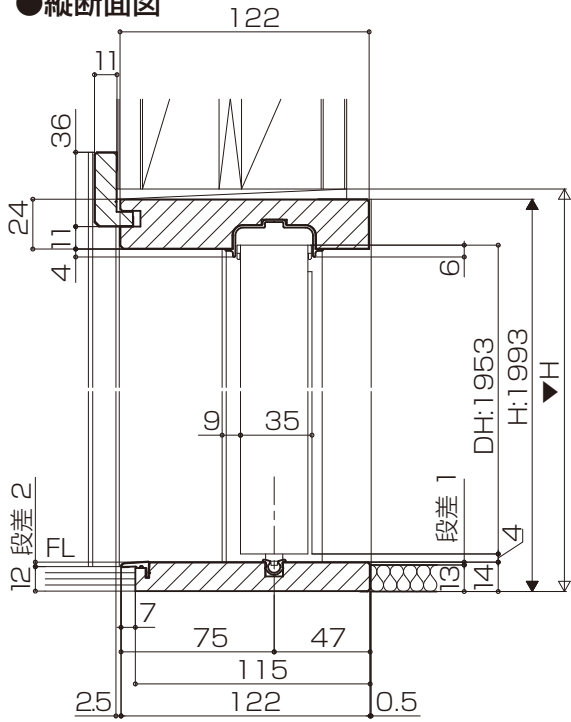
●横断面図



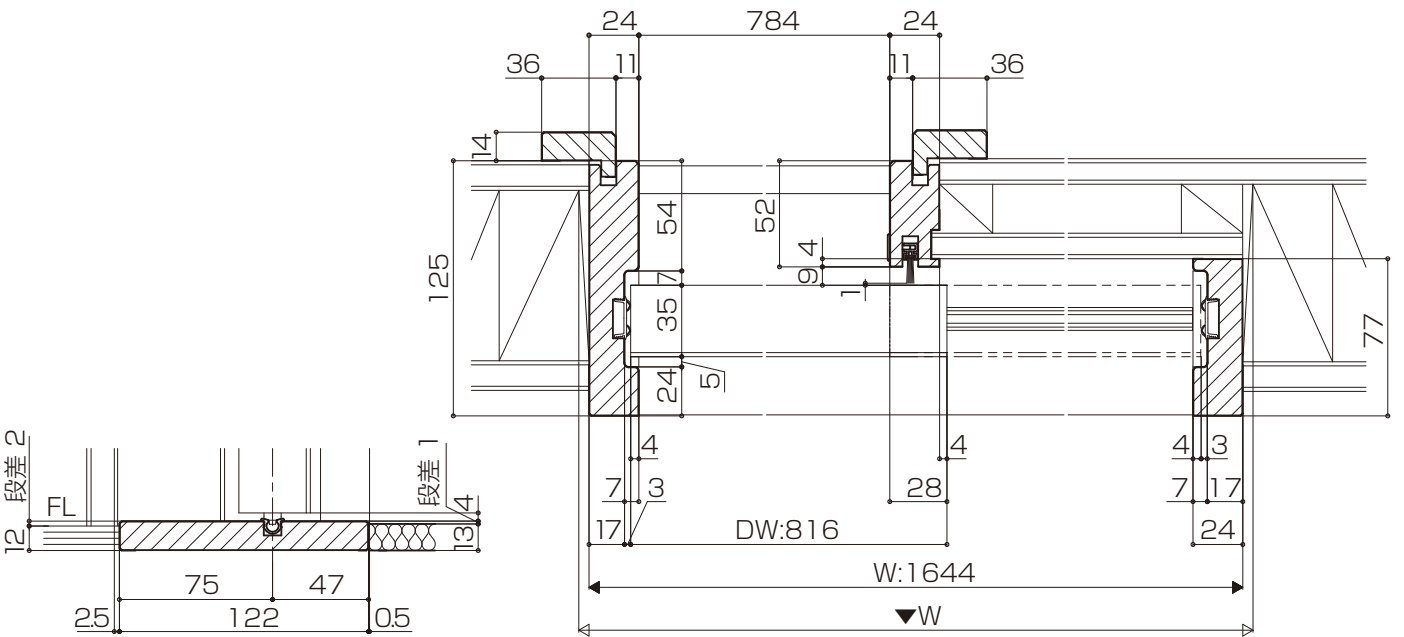
※本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。

■片引戸(2×4用)

●縦断面図



●横断面図

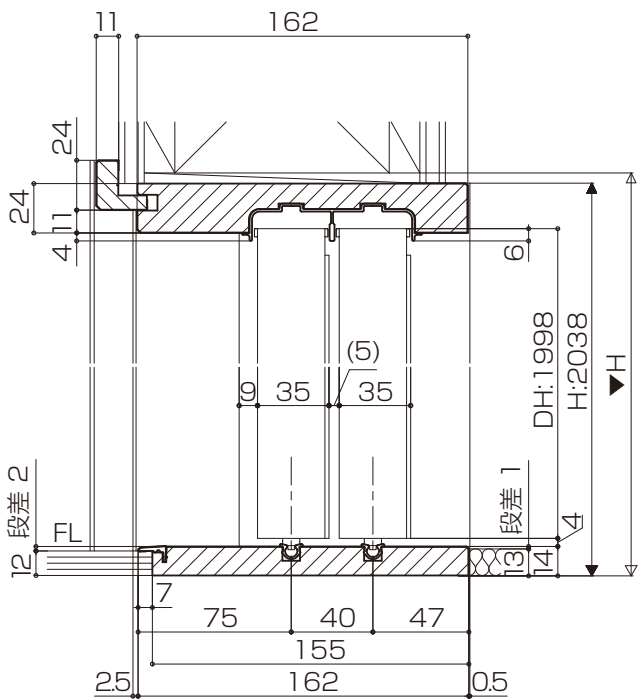


・ツバなし薄敷居使用

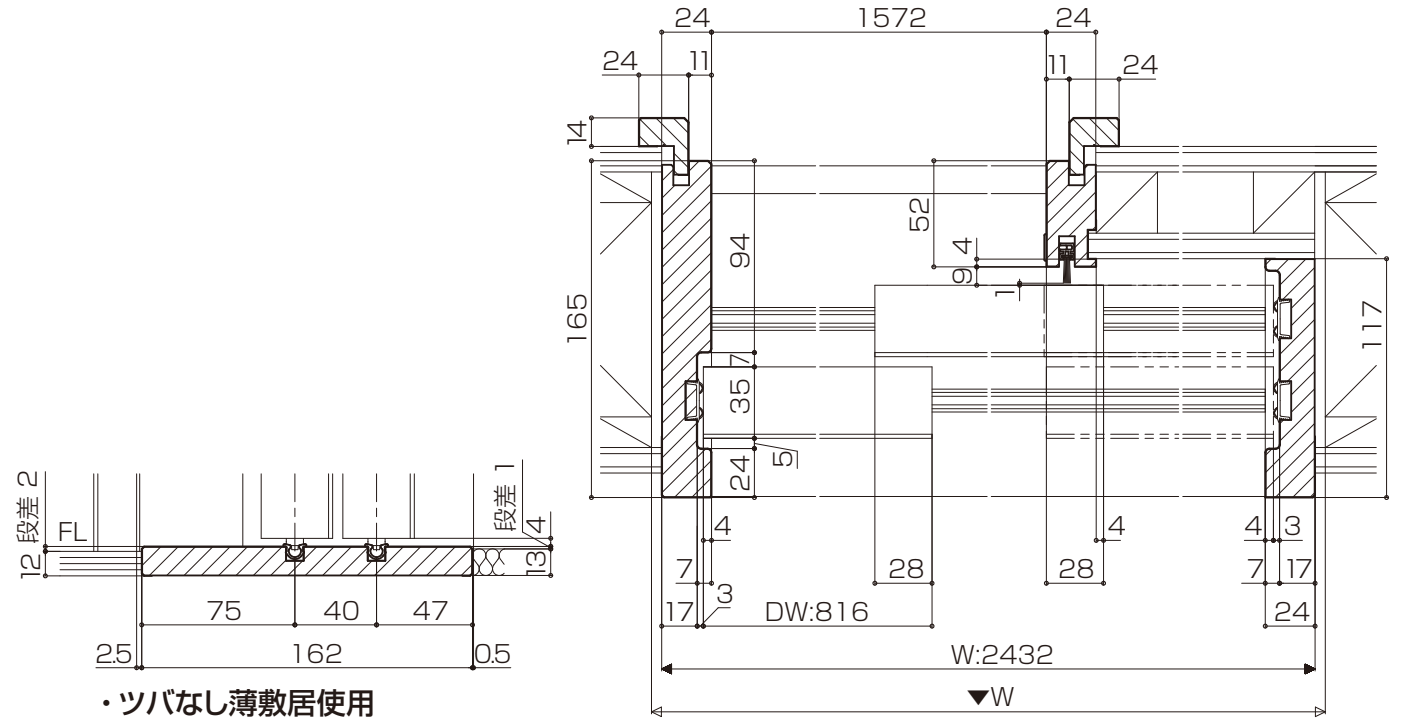
※本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。

■片引戸2枚建

●縦断面図



●横断面図

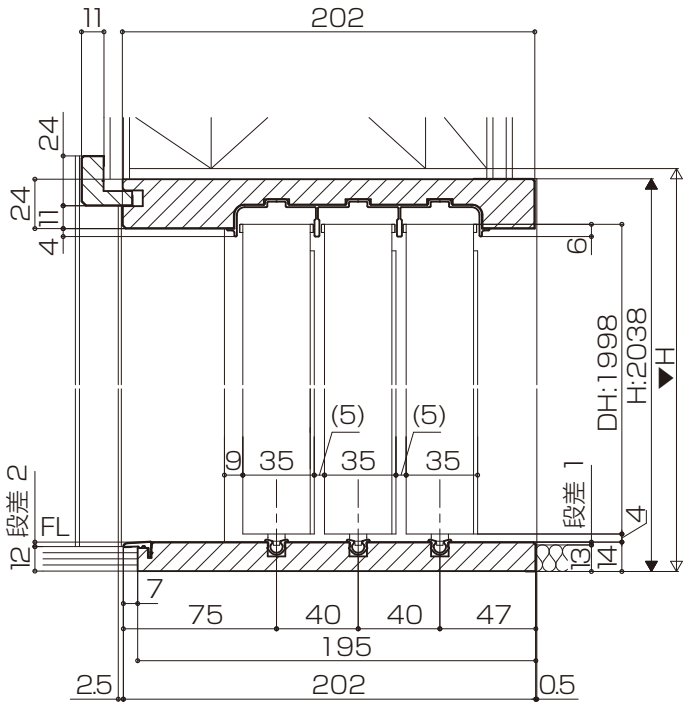


・ツバなし薄敷居使用

※本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。

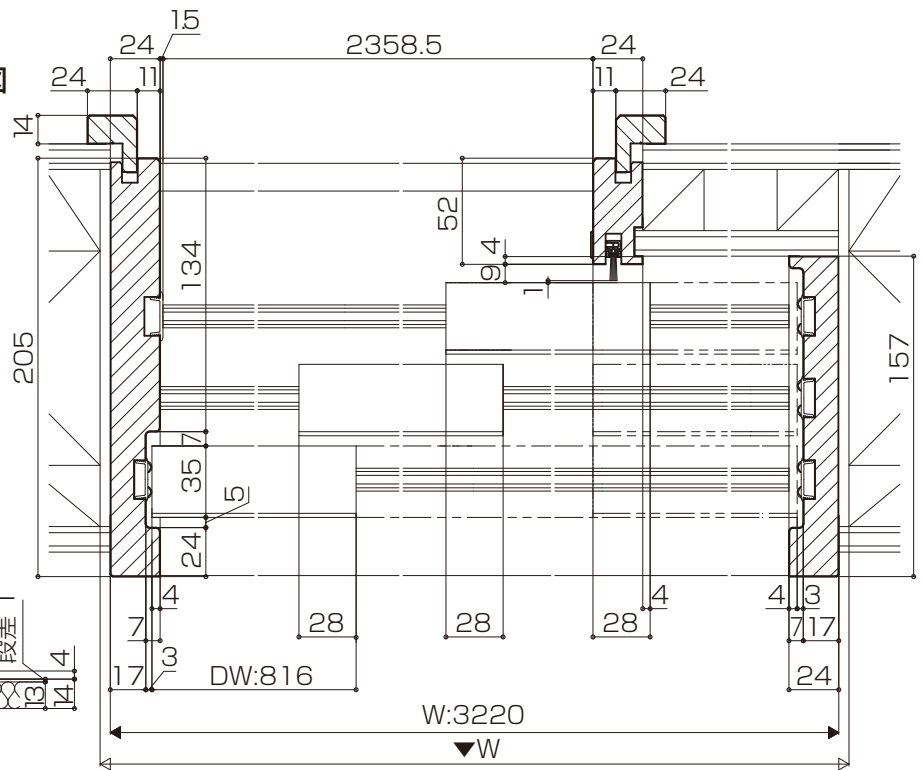
■片引戸3枚建

●縦断面図



・ツバなし薄敷居使用

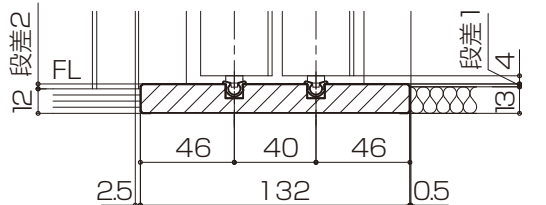
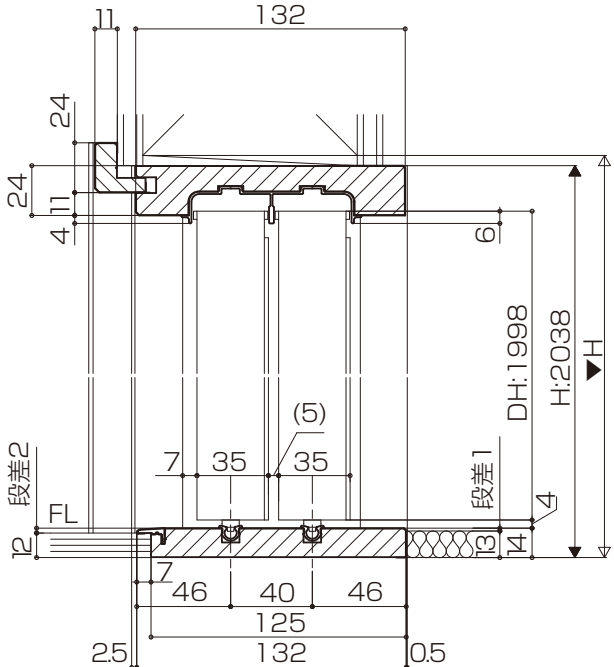
●横断面図



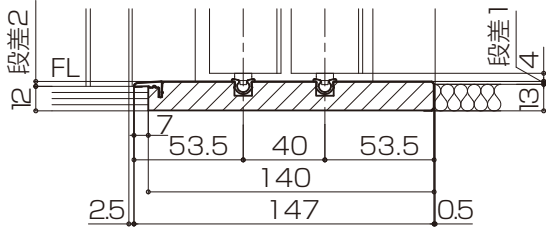
※本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。

■引違い戸2枚建(薄壁用)

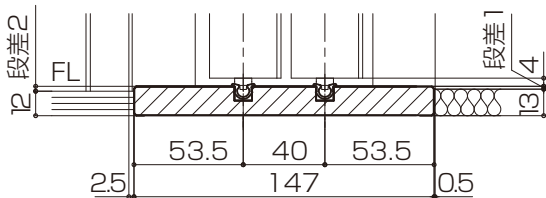
●縦断面図



・薄壁用ツバなし薄敷居使用

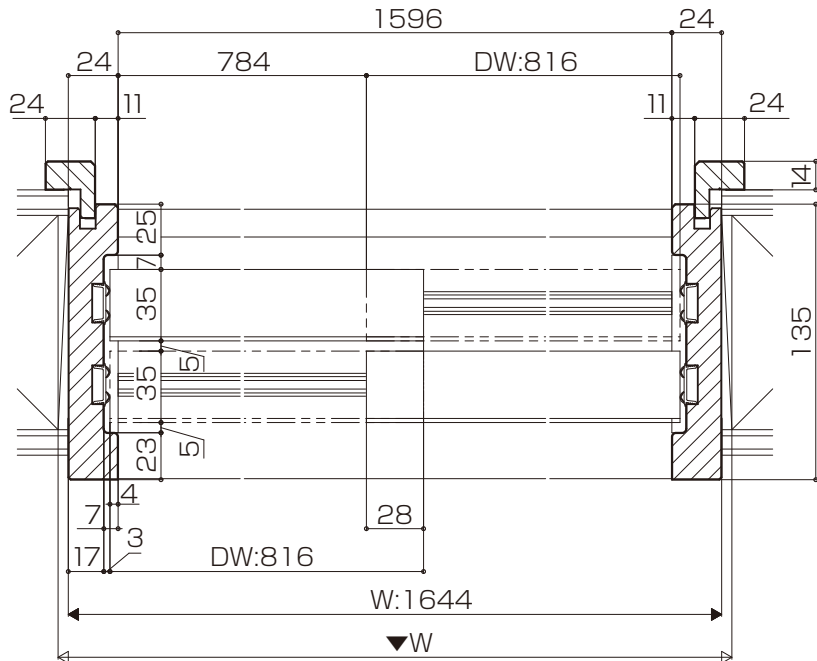


・厚壁用ツバ付薄敷居使用



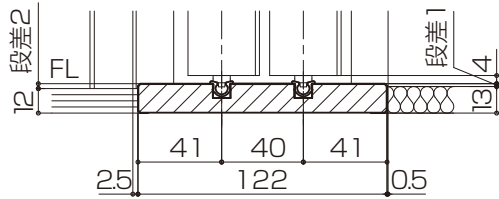
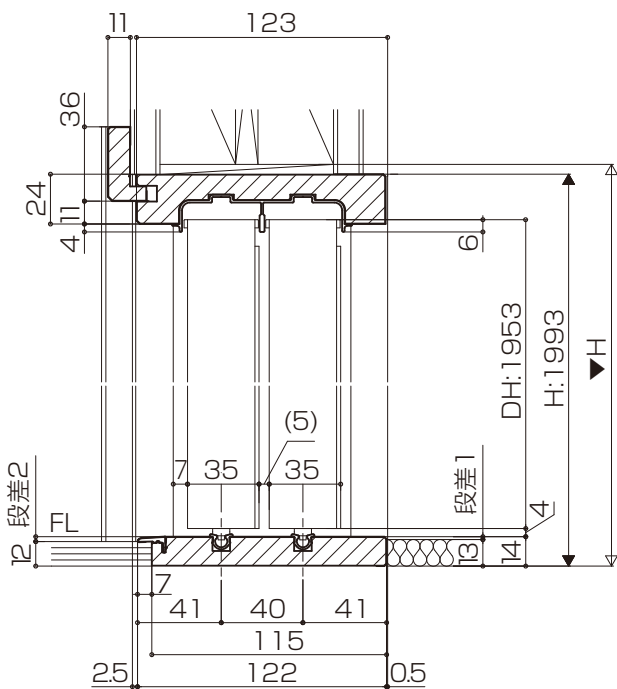
・厚壁用ツバなし薄敷居使用

●横断面図



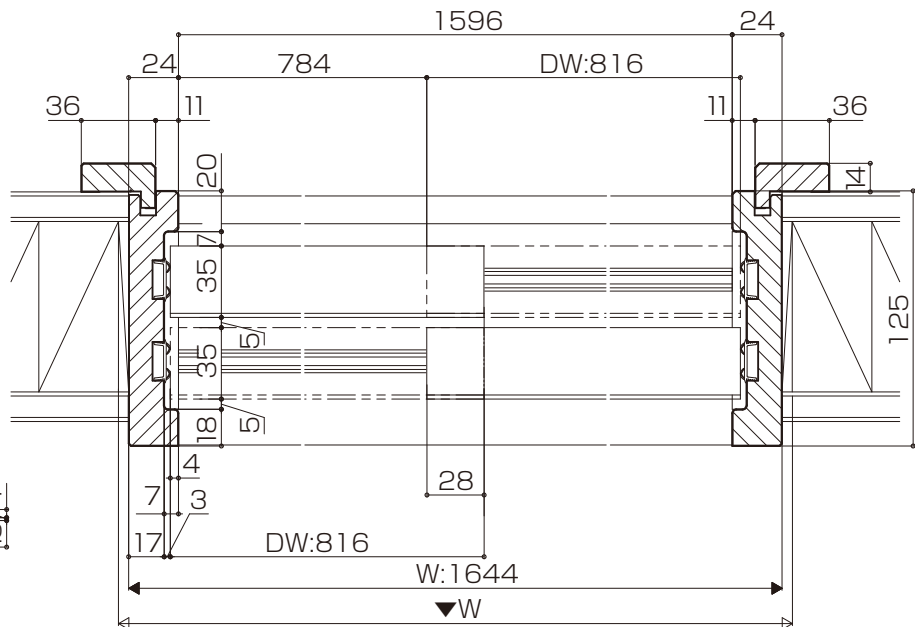
■引違い戸2枚建(2×4用)

●縦断面図



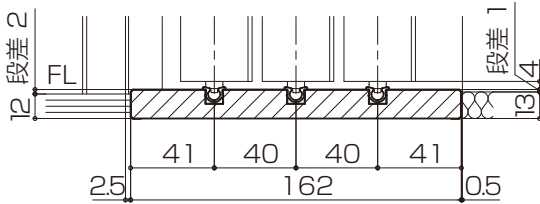
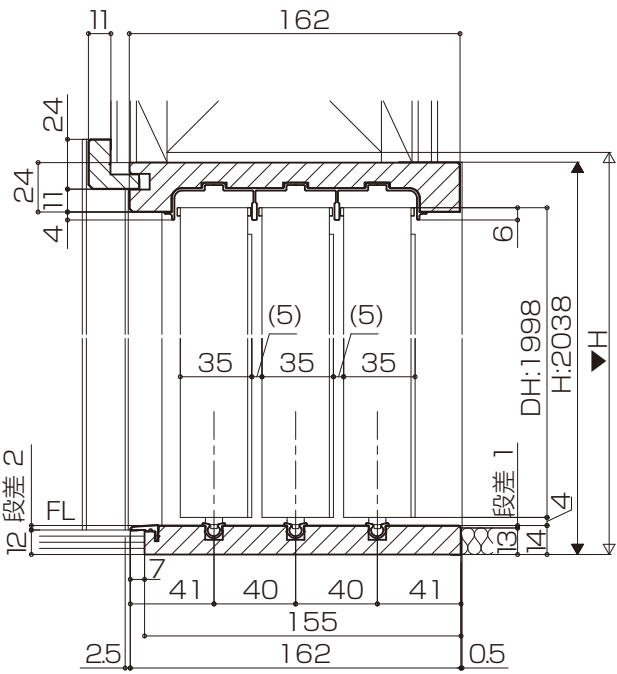
・ツバなし薄敷居使用

●横断面図



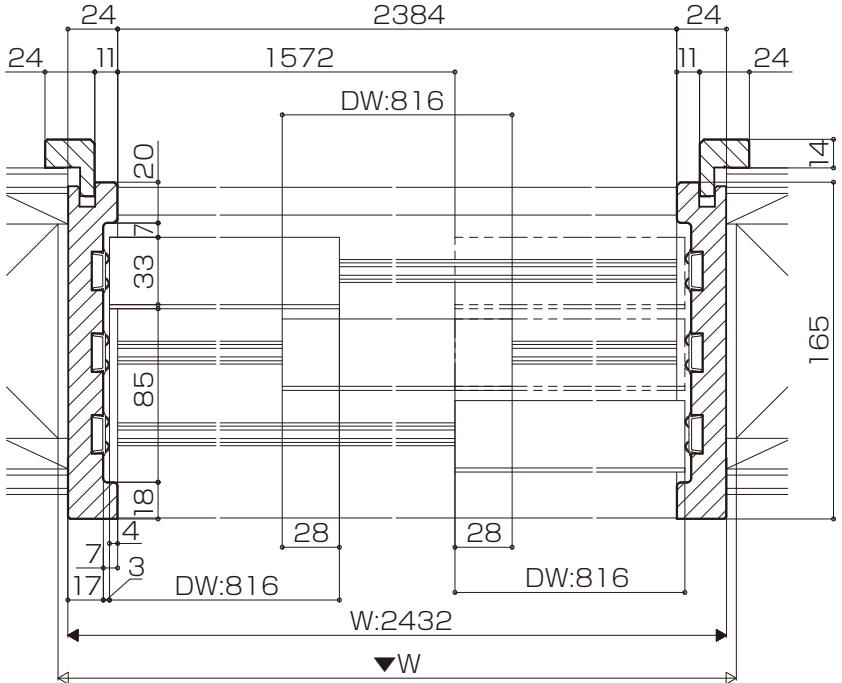
■引違い戸3枚建

●縦断面図



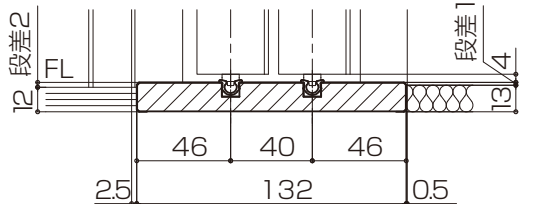
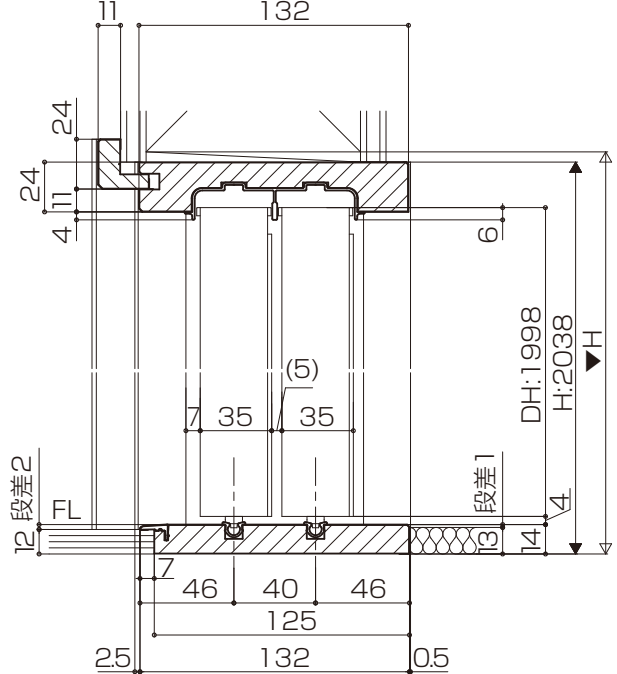
・ツバなし薄敷居使用

●横断面図

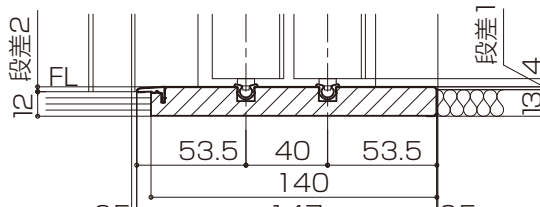


■引違い戸4枚建(薄壁用)

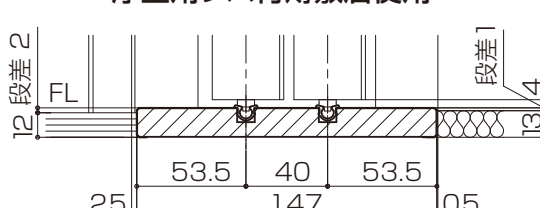
●縦断面図



・薄壁用ツバなし薄敷居使用

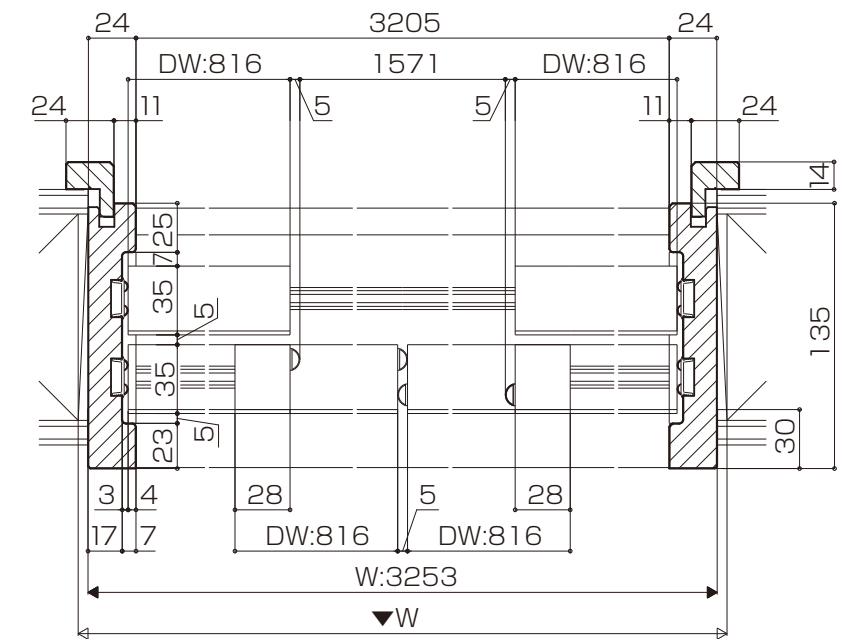


・厚壁用ツバ付薄敷居使用



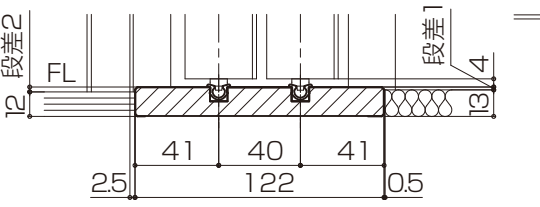
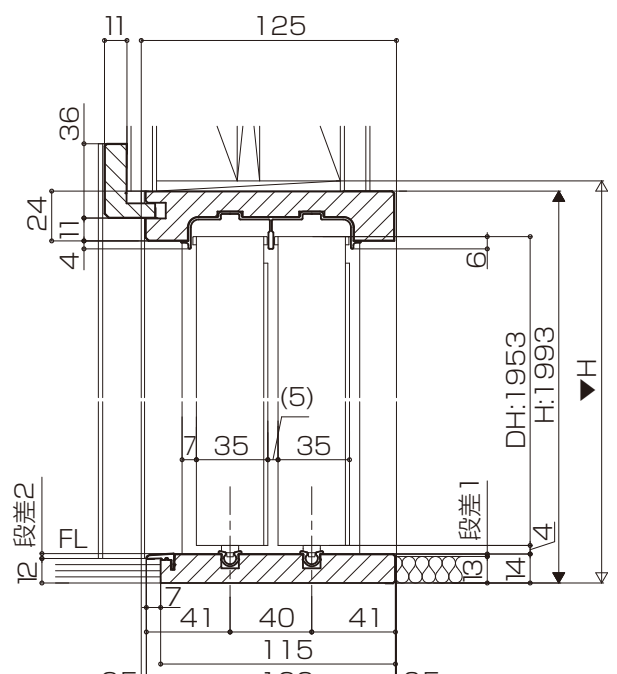
・厚壁用ツバなし薄敷居使用

●横断面図



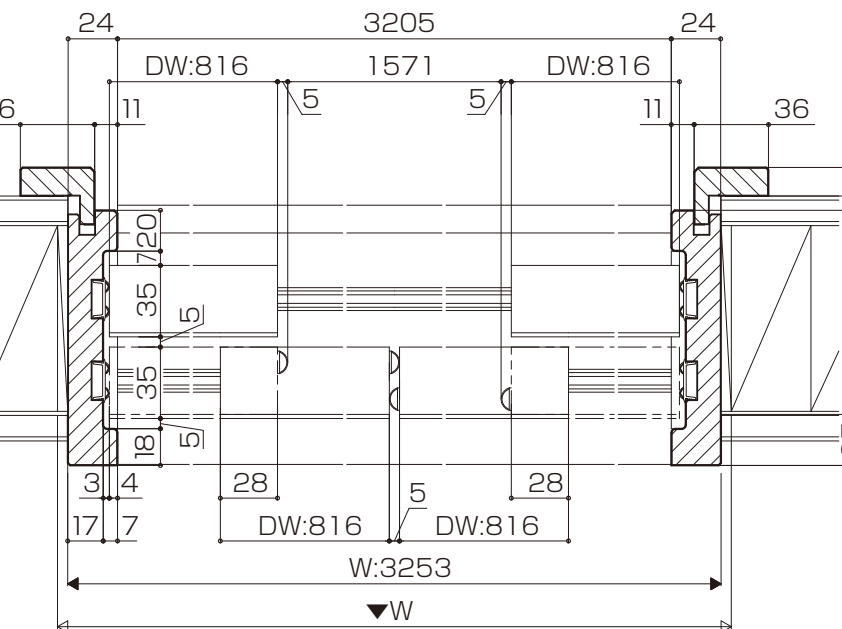
■引違い戸4枚建(2×4用)

●縦断面図



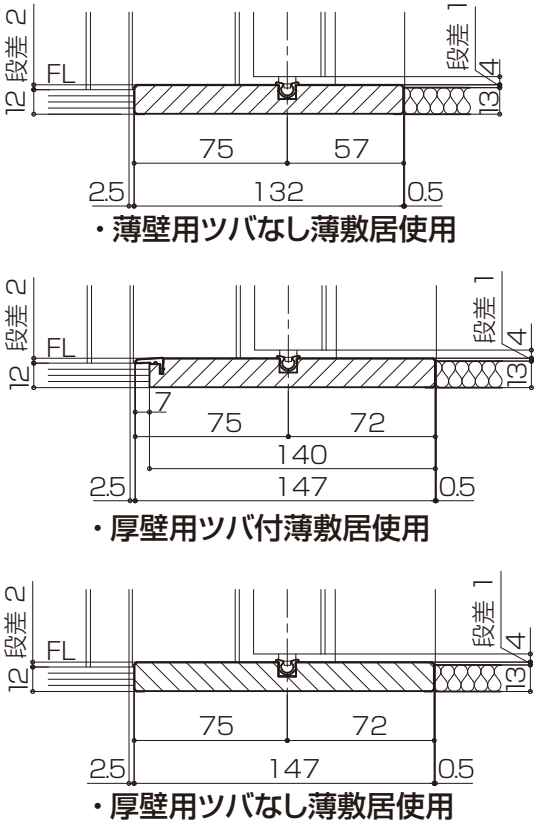
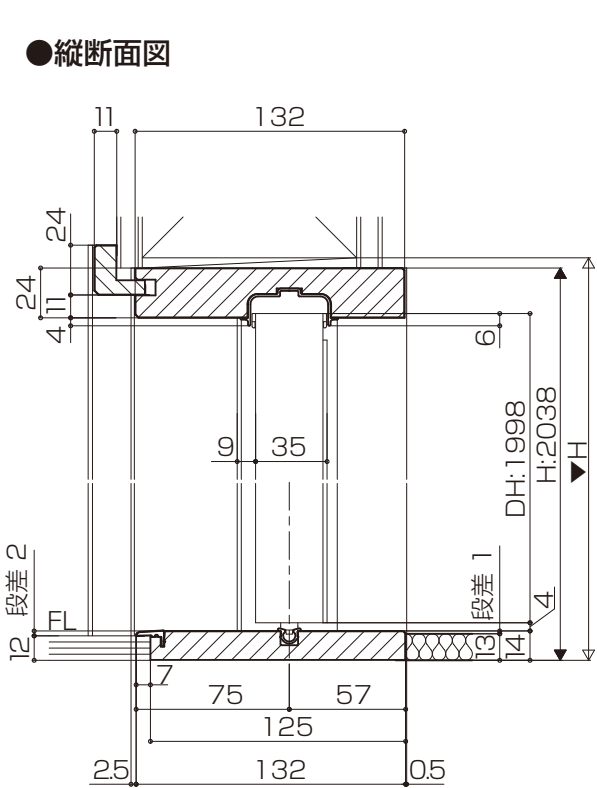
・ツバなし薄敷居使用

●横断面図

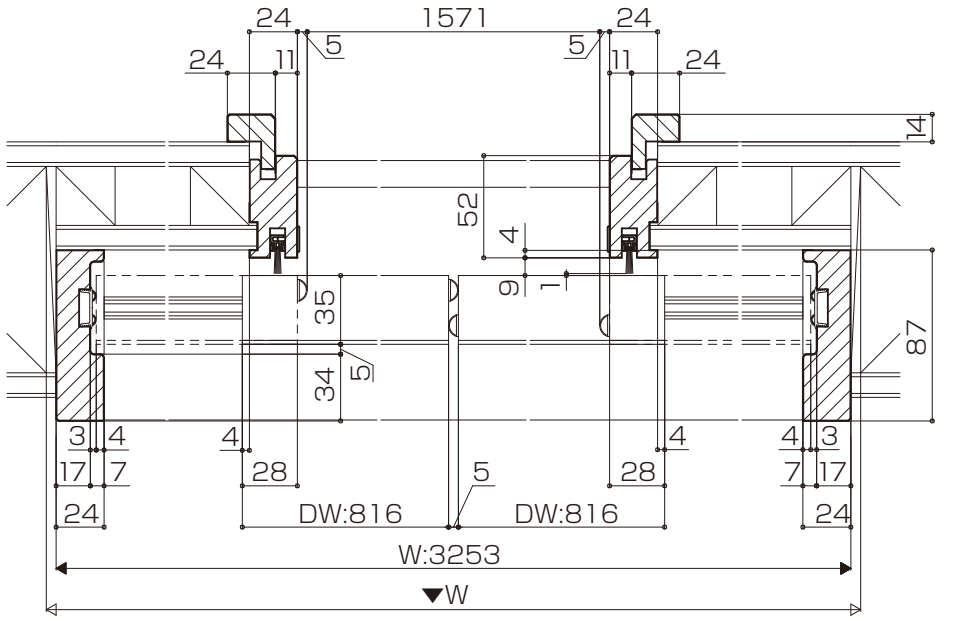


■引分け戸(薄壁用)

●縦断面図

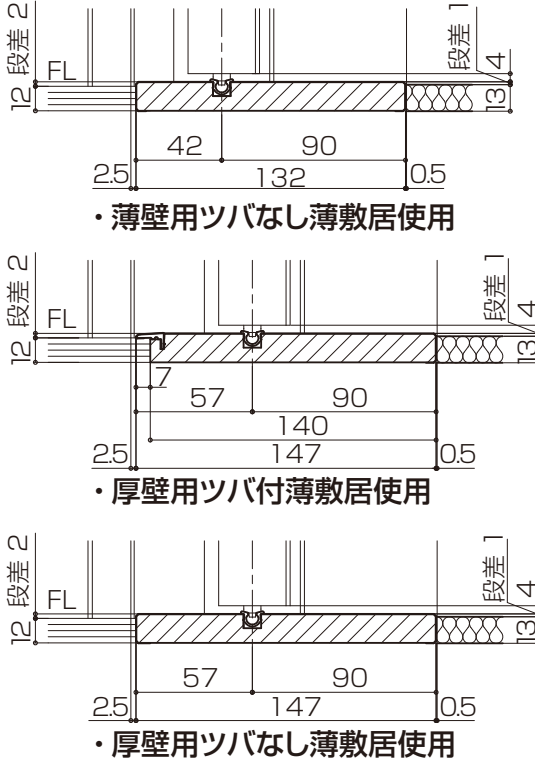
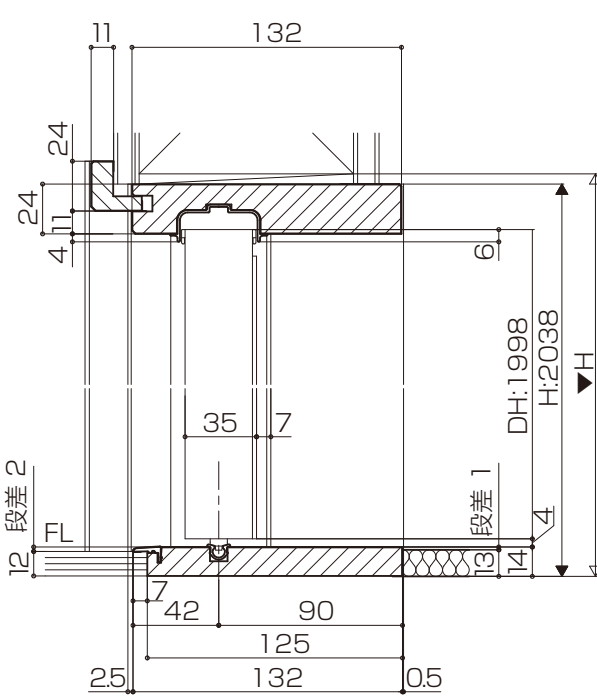


●横断面図

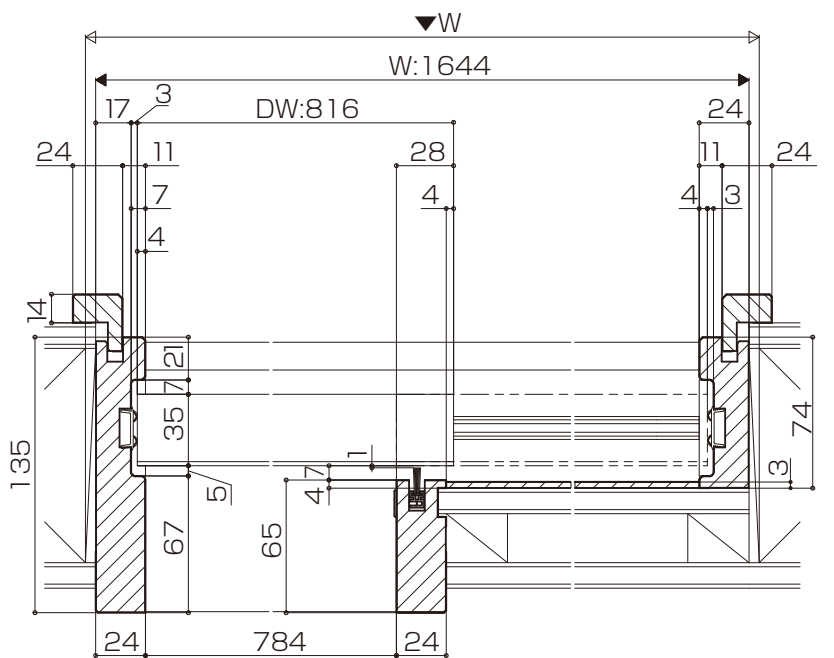


■片引戸 洋室引込(薄壁用)

●縦断面図



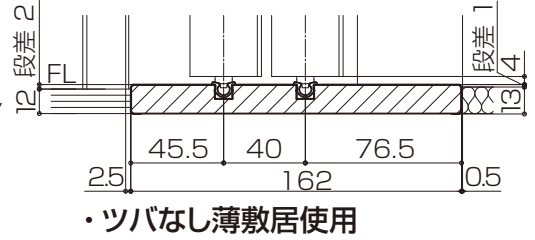
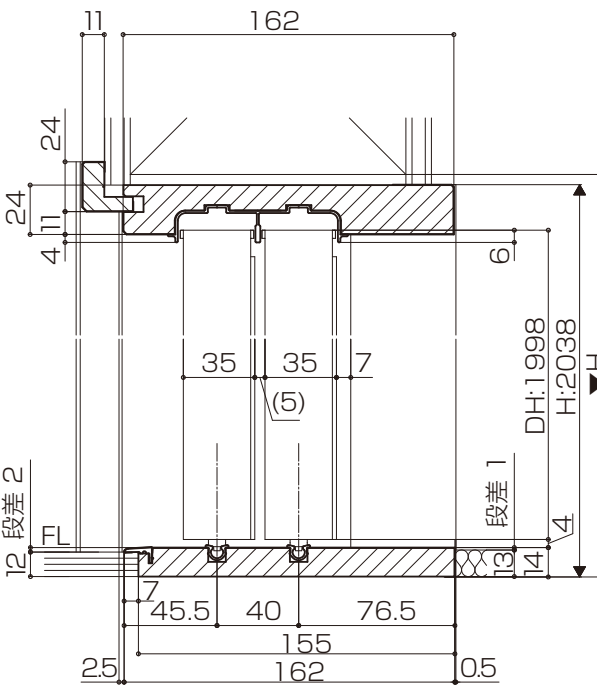
●横断面図



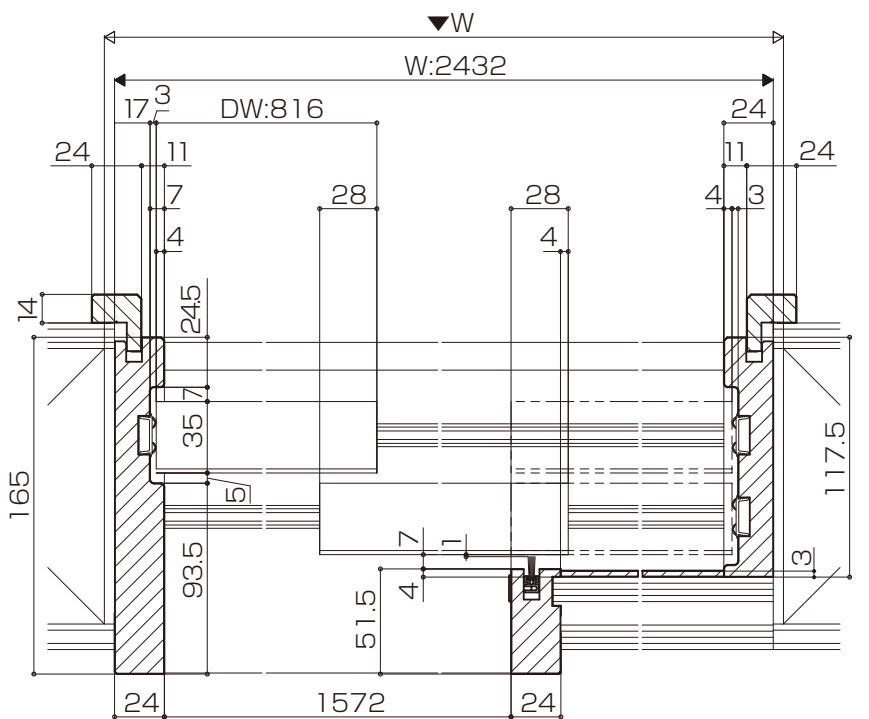
※本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。

■片引戸2枚建 洋室引込

●縦断面図



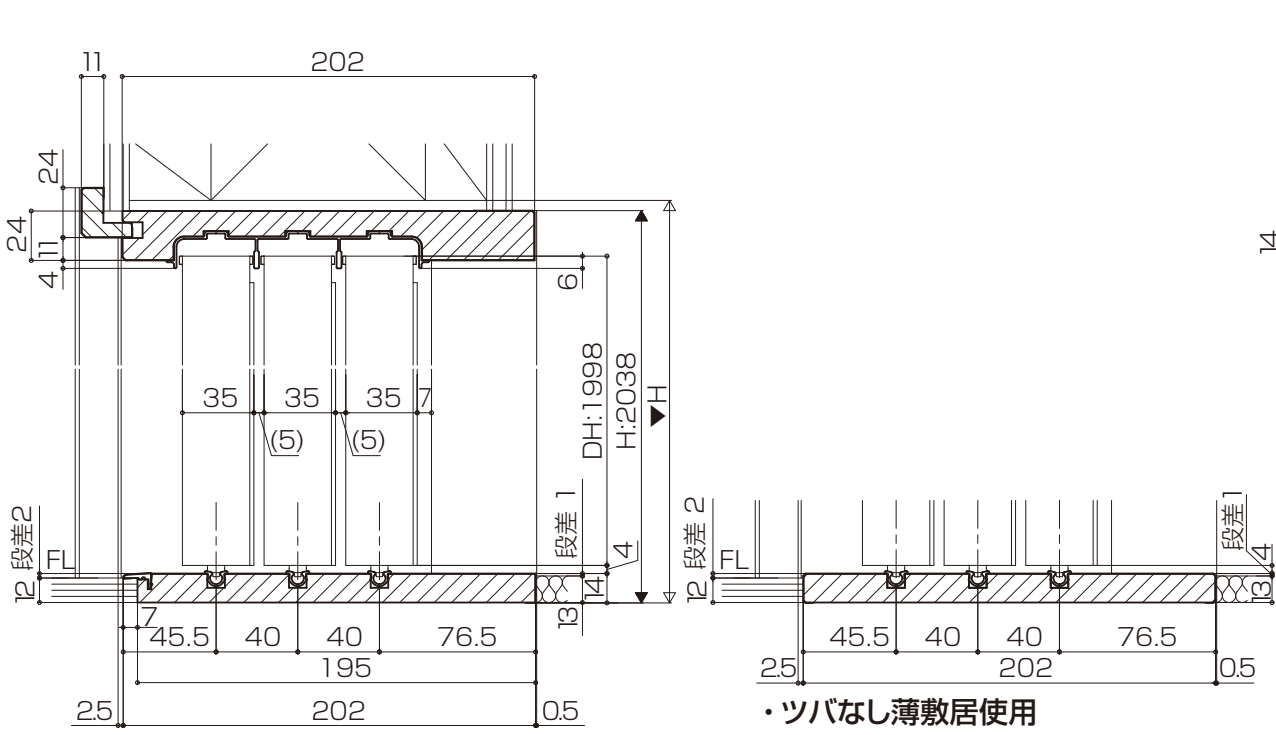
●横断面図



※本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。

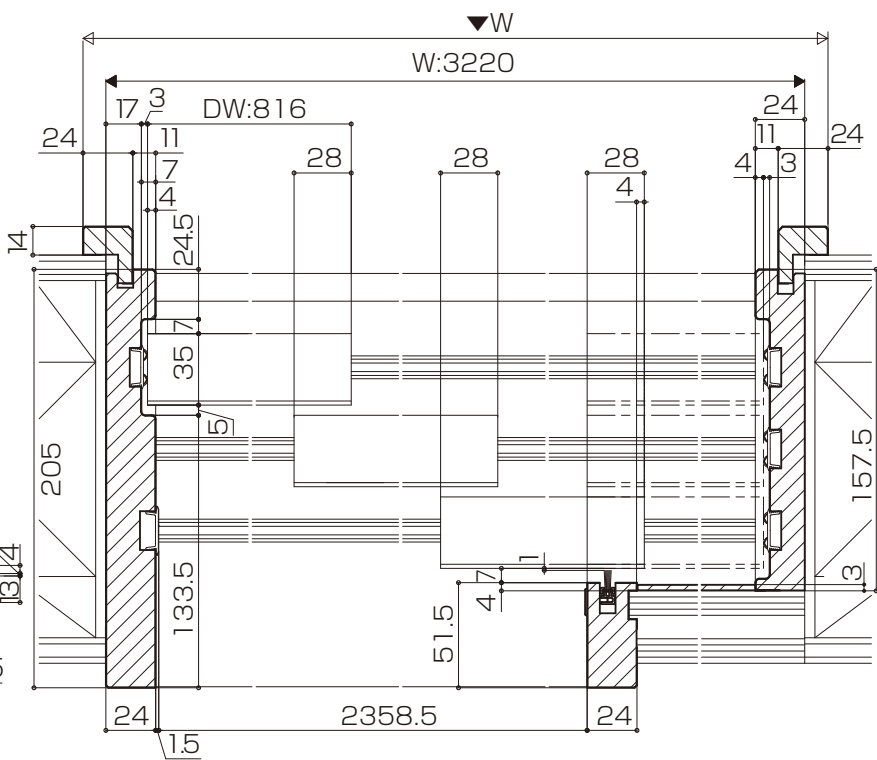
■片引戸3枚建 洋室引込

●縦断面図



・ツバなし薄敷居使用

●横断面図



※本図は、左勝手用を示す。右勝手用は本図と対称とする。